県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	北　村　山	開催年月日時	平成18年6月12日(月)　18:00～20:30
開催場所	村山総合支庁　北庁舎5階講堂	参集者数	52名
審議会委員	大高委員、松岡委員	県担当者 (みどり自然課) (森林課)	佐藤(洋)、出井、堀米、井上、鈴木 三浦、佐藤

主な意見等

《施策全般》

- 林業の現状は厳しいものがあり、現状を打破するため県民の意見を聞く必要がある。
- 農林業と一般的に言われているが、どこまでが農業で、どこまでが林業なのか。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 個人所有で管理放棄されている山などにおいて、10年間手入れをしない箇所は国等が買い取るとかの具体的な対策が必要。
- 山に興味ある人は大勢いると思う。団塊の世代でやりたい人はいるけれど、やり方が分からないので教えてくれる制度があればいいのでは。
- 管理が放棄され山に行かなくなり、境界が分からない状態になっている。この状態では、いかなる施策も展開できなくなるため、早急に森林の所有界の保全を図る仕組みが必要。
- 市制10周年記念で「青年の山」を造成したが、その後の支援がない状態。何らかの支援策が必要。

《21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 河島山や最上川周辺の、ため池、休耕田のあぜ道の生物多様性が失われる前に保全してほしい。
- 里山が危機的な状況にあり、里山の生物も影響を受けている、長い目でみて、生物さえ棲めない環境には人も住めないので、効果がでるような保全対策（希少生物も含めた）をしてほしい。
- 森林の問題では、希少生物の保護や森林の二酸化炭素の吸収源としての働きなど、検討すべきことは色々あるのでは。
- 林内に放置されたナラの木などを使い、子供たちにキノコの菌打ちなどの自然学習をしてもらえば、森林への興味を持ってもらえるのでは。
- 森林の大切さを理解してもらうため、子供たちを対象にした「ふるさと教育の森」のような事業を全県で展開してほしい。
- 支援センターの事業などで講習を計画する場合には、土日に設定してほしい。
- 森林を保全するためには活用することが必要。特用樹の植栽や特用林産物の栽培への支援も、森の活性化に有効なのでは。

《新たな財源の確保について》

- 基金を創設するとあるが、基金益のみでは新たな事業展開はできないのではないか。
- 県では基金を創設し緑化活動などを展開しているはずだが、これとの関係について教えてほしい。
- 山新に記事が掲載されており「税金で一致」との表現であった。何の税（種類）なのか。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	東南村山	開催年月日時	平成18年6月13日（火）　18:00～20:00
開 催 場 所	村山総合支庁　本庁舎2階講堂	参 集 者 数	42名
審議会委員	大高委員、内藤委員	県 担 当 者 (みどり自然課) （森 林 課）	小柳(環境企画課) 佐藤(和)、出井、堀米、井上、鈴木 菊田、渡邊

主な意見等

《施策全般》

- 今までは、林業系の施策を中心に実施されてきたが、森林の環境保全機能を考慮した、バランスのよい森林づくりを行うことが必要では。
- 地域の森林は、地域に生活している人に活かされており、その営みは森林文化という形で継承されてきた。今、そのように人と関わりの中で活かされてきた森林を、ここ30年でどうしていくのか。百年後の豊かな森林のためにどうすればいいのか。県は是非、夢を持って、明確な理念と理論を持って、施策提言をしてほしい。
- 林業だけをみて新たな税の創設を図るのではなく、幅広い視点で考えることが必要。また、負担してくれた人にどのような行政サービスをして返して行くのか、真剣に考えて欲しい。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- ナラ枯れ被害が広がることが懸念されているが、内陸にも広がる前に防除体制を確立する必要がある。

《21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 森林がどのような状況なのか、管理しない場合どうなるのか。公益的機能が低下するとすれば森林に関わって歯止めをかけていきたい。積極的に森林ボランティアを展開していくことが必要。
- 県内には多様な生物環境が存在するが、山から海に連なる一連の生態系をどうやって守っていくのか。生態系の健全性を守るための取組みも、新たな森づくりで検討すべき。
- 取りまとめには、是非具体的な内容を入れ込んでもらいたい。また、多様な生き物、多様な樹種とあるが、付属資料にでも分かりやすい説明を入れてほしい。
- 女性が枝打ちや、下刈りなどの作業を行うことは、本当に大変なことです。しかし、女性パワーでがんばっていきたいし、緑の少年団の育成とか積極的な活動を実施していきたい。
- 県内４つの県民の森は、これからの森づくりの拠点としての役割を期待されている。現在指定管理者制度により「県民の森」を運営しているが、森づくりを実践する機能を重視した管理を行うべき。
- 希少種の野生生物ということで、レッドデータブックの作成に協力したが、里山の希少種の調査や保全活動は当然継続して行う必要がある。全ての生物に対応することはできないが、シンボル的なものを、新税の使途として位置付けられないか。
- 学校教育においては「命の教育」ということで、森林との関わりを子供たちに教えることも重要なテーマになっており、そのような取組みも含めた、全国に先駆けたすばらしい制度を期待している。

《新たな財源の確保について》

- 森林整備にかかる新税の他県の取組み状況を、取りまとめに入れ込む必要があるのでは。
- 新たな財源が必要とのことだが、どの程度の規模で、どのくらいの額が必要なのか、できる範囲で提示してほしい。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	西村山	開催年月日時	平成18年6月14日（水）　18:00～20:00
開催場所	村山総合支庁　西庁舎3階講堂	参集者数	34名
審議会委員	大高委員、菅原委員	県担当者 （みどり自然課） （森林課）	佐藤(洋)、堀米、井上 海老名、佐藤

主な意見等

《施策全般》

- 立派な構想だが、お金にならない森林の手入れをしろというのは、森林所有者には厳しい。
- 山村に住む人間として山を維持できないし、部落でも維持できない状況にある。また、今回の中間とりまとめには山の気持ち（森林所有者の気持ち）が入っていない、もっと森林所有者に目を向けた取組みが必要。
- 補助事業を利用する時に制約が多すぎるので緩和して欲しい。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 森林整備に今どのくらいの手間がかかって、誰が何を実施しているのか、現状を教えて欲しい。
- 住宅産業として、地域材の製品を使用したいが、流通していない。岩手県では県森連が窓口で親切に対応してくれる。山形県にも同様なものがあれば、地域材の利用も進むのではないか。
- 県道沿いの９０年生のスギ林を伐採しても、経費のほうがかかって、赤字になるのが今の木材の値段だ。３代かけて育てても、値打ちがないということで、跡取りは山の手入れをしなくなっている。
- 税金を使って森の活性化を図るというわけだが、本当に森の活性化を図るには、そこで収入を得るものがないとうまくいかないのでは。間伐材で新たな製品をつくるなどニーズを掘り起こすことが必要。
- 所有者が東京の人で「何もしないなら売って欲しい」と話をしたが、東京の土地の感覚のため折り合いがつかずに終わったことがある。このように、地域の中で今手入れをすればいい森林になるものも、手入れができない厳しい状況にある。

《21 世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 山形でもバイオエネルギーの利活用について検討課題として欲しい。

《新たな財源の確保について》

- 他県の新税の導入状況を教えてほしい。
- 森林税は県レベルでやるのではなく、日本国民全体の問題なので、国で対応すべき。都市部で何もしていない人が負担すべきだ。
- 租税でするとすれば、県民のみなさまの理解を得ることが大事で、どういうところに使うのかが明確でないといけない。
- 森林を手入れすれば、山がよくなり個人の利益につながる。公的資金を個人の利益に使うのはどうかと思う。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	鶴岡田川	開催年月日時	平成18年6月15日(木)　18:00～20:00
開催場所	鶴岡市中央公民館　会議室	参集者数	26名
審議会委員	酒井委員	県担当者 (みどり自然課) (森林課)	佐藤(和)、出井、鈴木 海老名

主な意見等

《施策全般》

- 資料では里山林と人工林がはっきり区分されているが、実際はこんなにくっきりと分かれてはいないと思う。新たな施策については、抽象的で分からないので、もっと具体的に何をどのようにしたいのか分かるように説明してもらいたい。
- 森林・林業を取り巻く状況の変化から、これまでの手段のみでは対応できない部分があるからこうなった、ということをきちんと認めて、言い訳せずに見つめ直すべきである。広く県民みんなに認めてもらうことは大変なことであり、そうしていかないと新たな取組みは、容易ではないと思う。出来るところと出来ないところをはっきり示して、県民に対してはっきりとした間違わない方向性を示してもらいたい。
- 川下の文化的生活は、川上の山の文化があってこそ、という言葉がある。現在山がもたらしている恩恵、水だけでなく、ただでもらっている空気の恩恵など、数字にすればものすごい恩恵があるので、県民に対しても数字で示していけば良いのではないか。
- 近年庄内の漁業関係者によると「非常に魚が少なくなった」と聞いている。その辺の内容（森と海の関係）も盛り込んでいくと世界的な環境問題として考えていけるのではないか。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 森林は細かく所有者が分かれており、自分の山がどこにあるか分からない、という人も多い。このような小規模な所有者に対する支援が課題である。
- 整備していくところとしないところをはっきり示したほうが良いのではないか。行政的な考えとして、森林《税》でうまくいけば、次は河川《税》に、次は海岸《税》に、となりかねないので、すべて総合的《幅広く自然環境全体を対称》に考えられないのか。
- 地産地消につながる、県産材の利用を重要視してもらいたい。
- 今後、万が一木材価格が上がったりすれば、所有者はみんな伐採してしまうと思われるので、何か対策や規制は考えているのか。
- ナラ枯れの被害にあった木は、枯れて腐れてしまうと根こそぎ倒れてしまう。このままだと今後ひどい災害が起きる可能性があるため、新たな施策で対応すべき。

《21 世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 山形の森づくりを考える上で、自然生態系全体の保全について考慮する必要がある。

《新たな財源の確保について》

- どのくらいの規模の資金が集まれば、この森づくりは達成されるのか。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	酒田飽海	開催年月日時	平成18年6月15日(木)　18:00～20:00
開催場所	酒田市総合文化センター　会議室	参集者数	27名
審議会委員	北村委員	県担当者 (みどり自然課) (森林課)	佐藤(洋)、堀米、井上 菊田、横倉
主な意見等	《施策全般》 ・　林業従事者の高齢化対策も考慮して欲しい。 《環境保全を重視した施策の展開について》 ・　庄内地域の広範囲に広がる松くい虫被害対策が国の三位一体改革で市町村ができるのかと心配している。酒田市においては松くい虫被害を放置していては市民・県民の理解が進まないと思う。県の努力を期待する。 ・　一般の県民が木と触れ合う機会として住宅建築が身近なものである。地域材を使用した住宅建築を希望する人に、設計から施工までパッケージ商品として提供できるように販売方法を工夫していくことが必要。 ・　地元の木材を使用した自治会館の建設に対する補助金などの支援策があれば、住宅だけでなく地域の木材の需要が進むのではないか。 ・　農業でも外国との競争が激化していて、付加価値をつけたものを作っていかないとだめになってきている。林業でも同じことが言えるのではないか。私は、山に付加価値をつけるという観点で広葉樹を植えている。 《21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》 ・　もっと海岸林のボランティア活動などについても触れて欲しい。 ・　施策を考えるときに、森林を楽しみながら利用できる「山菜取り」や、都会から来た人との交流の場としての活用など、取り組みやすいところから取り込んではどうか。 《新たな財源の確保について》 ・　既存の施策の見直しや縮減により新しい費用負担を発生させなくてもできるのではないかという声が上がった時にきちんと説明できるようにしておくことが必要ではないか。 ・　森林・林業を巡る予算の状況や、県のレベルでも何百億という借金を抱えていることが語られていない。 ・　木材価格の低迷という状況で、数字の上では森林は資産のところに入っているわけだが、実際は負債を抱えているという現実がある。こういう状況を現状のまま放置しておいていいのか。山形県は一体、どういう形でこれまでの民有林の制度をやってきたのか。この辺の整理がないと、新しい税で新しい施策をする意味がない。 ・　これまでやってきたことが３割（予算）に減っていいのか。減らされる前の状況でさえもこういう荒廃をつくりだしてきた。この荒廃を防いでいくには、どのくらい財源を投入しなければ山形県のみどりが守れないのか、こういう機会に示すべき。一般財源ではここまで、新しい税ではここまでというものを示さないと本当の県民の理解は得られない。森林審議会においてもっと大胆に現状の問題を明らかにすべきである。財政的、経済的にどんなに行き詰まりがきているのかをこういう機会に示すべきだ。		

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	東南置賜	開催年月日時	平成18年6月16日（金）　18:00～20:15
開催場所	置賜総合支庁　本庁舎2階講堂	参集者数	18名
審議会委員	白壁委員	県担当者 (みどり自然課) （森林課）	佐藤(和)、出井、鈴木 大谷

主な意見等

《施策全般》

- 山形の森林の半分以上は国有林であり、重要だと思うが、国有林についての話は審議会では出なかったのか。国有林との関わりについてはどう考えているのか。
- 国産材の材価が上がらないと駄目だと思う。税を使っても結局は尻つぼみになるのではないか。税よりも材価が上がるように支援してもらいたい。
- 山林所有者としては、勝手に人の山に入って、きのこを採ってしまう人をどうにかしてもらいたい。
- 林業で一家を支えていけるような仕組みを作っていかなければならないと思う。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 国産材の自給率については、今１５％くらい。もっと国産材の消費量を伸ばしていかなければならないと思う。国産材が消費できるシステムづくりが必要。
- 若いころから林業をしてきたが、木をいかに育てるか、ということだけを考えてやってきた。しかし、今はそのようなことでは駄目だと思う。林業を度外視して環境の面から整備を進めるということで、是非進めてもらいたいと思う。“絵に描いたもち”にならないように。
- 松くい虫の防除については、所有者自らが山に入って防除するというのは無理である。もっと県でもやってもらいたい。

《21 世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 私たちが子どものころは、近くの農山村で下草刈りをした。そのような子どもに対しての施策は何か考えているのか。

《新たな財源の確保について》

- 目的がはっきりして、こういうことをする、ということであれば良いと思うが、具体的な提示もないのに、税徴収について判断できない。
- 森林を県民みんなで守る、ということは他県でも行っていると聞いており、山形県も一歩近づいたな、という感じである。本当に一見山は緑豊かに見えるが、中に入ればひどいものだ。また、山村での不在村化が進んでいる。ごく一部の方は熱心に維持管理を行っているが、本当にごく一部である。税を投入し、実際目に見える形での成果を期待する。
- 過去、環境税については見送られた経過がある。その理由として、使い道が分かりづらい、ということが出てきたように記憶している、是非使途を明確にしてもらいたい。
- 最近ではいろんなところで「森林の恩恵はすばらしいものである」といった言葉を聞くようになり、すばらしいことだと思う。そんなに森林のすばらしさを訴えるのなら、もっと行政的にも手（予算）を加えても良いのでは。私も山を持っていて父から引き継いだが、今林業が成り立つような状況ではない。逆説的にいえば、新たな税を投入することで、一般県民はより森林林業に目を向けるようになるのではないか。水と空気などあって当たり前、なくなったときのことなど誰も考えないので、このような議論の場をもっと設けてほしい。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	西置賜	開催年月日時	平成18年6月16日（金）　18:00～20:00
開催場所	置賜総合支庁　西庁舎5階講堂	参集者数	47名
審議会委員	大高委員	県担当者 (みどり自然課) （森林課）	佐藤(洋)、堀米、井上 渡邊

主な意見等

《施策全般》

- 制度には賛成する。森林の整備は山村に住んでいる人がいないとできないので、３０代、４０代の人に対しなんらかの所得補償をしないと山村に残ってもらうような制度を検討することが必要。
- 行政が施策をする時は、なぜやらなければならないのかということをきちんと住民に説明する必要がある。今、森林が危機の状態にあることと、この理由を中間とりまとめの中で読んだが、この部分をもっと深める必要があるのではないか。
- 木材や食糧については、地域循環（のシステム）を行政と住民とが本気になって確立する必要があるのではないか。国内で必要な木材は、国内で木を伐りながら、その山林全体を活かして続けていくことを原則にしていかなければならない。
- この仕組みの取組みには大賛成。しかし、一般県民の抵抗があるのではないか。若い人には日常生活と関連した、例えば「森林と水との関わり」などの話をしたりすると効果的ではないか。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 資源を育む森林の中にはスギ人工林のほかにも里山林もあって、広葉樹林が重要な建築材として利用したり、いろんなものに利活用されている現実をもっと住民の人に知らせていくことが必要。

《21 世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 県にいろんな団体がある。県当局にも予算がなくて何年も事業をしてもらえない。これから新たな森林活動をしていくにしても、窓口が多いと感じている。ボタン一つ押せば動いてくれるというシステムが欲しい。あっちこっちのボタンを押しても響いてこないのが現状で住民としては納得がいかない。
- 里山を、環境学習の場として活用するとか、森林セラピーの保養林として整備していくだけでなく、里山で森林づくりを自ら行っている人達への支援も、新たに取り上げてもらいたい。

《新たな財源の確保について》

- 全国での税導入の取組み状況を教えてほしい。
- 県民から課税をするとなると、還元できるようなものがあると納得の度合いが高まるのではないか、例えばペレットストーブを購入するときの助成制度など検討が必要
- 県民に租税というものを求めていくならば、県民の疑問、問題点に答えながら、今までの反省・総括に基づく施策が必要ではないか。
- 高齢者になると山の方へ興味が湧いてくる。これから当局が考えている課税対象となると３０代、４０代の人達に対する啓蒙をどうやっていくのかが大切。

県民みんなで支える新たな森林づくりにかかる地域意見交換会　要旨

地　区　名	最上	開催年月日時	平成18年6月19日（月）　18:00～20:00
開催場所	最上総合支庁　5階講堂	参集者数	52名
審議会委員	佐藤委員	県担当者 (みどり自然課) （森林課）	佐藤(洋)、堀米、井上、鈴木 三浦、古原

主な意見等

《施策全般》

- 県はお金がなくて、でも山は荒れているから、お金がほしいというふうに聞こえた。
- 環境の面からは混交林がいいのでは。やたらに人工林をつくりすぎたので、広葉樹を入れて整備していったほうが、森林の再生になるのでは。
- 子ども夢未来宣言の中にも、森林に対する県民のあり方について書いてあるが、１９７７年頃からCWニコルさんも同じようなことを言っている。山形県でもやっとか、と思っている。　４つの森のあるべき姿は、これからゾーニングなど行われることになると思うが、現状での個人の利用形態と違ってくるのではないか。

《環境保全を重視した施策の展開について》

- 最上町では牧野造林をしてきて３０年生くらいだが、地域住民は高齢化してきて山へ入ることできなくなっている。さらに、労務費がない（経費を捻出できない）ために手入れが出来ない。前納方式などで県から前倒しで資金をもらえないか。

《21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築について》

- 山への産廃不法投棄が多いと報道されているが、県ではどのような対策をしているのか。不法投棄を防ぐ意味でも森林の整備は必要だと思う。率先して山形県が取組むことが必要。

《新たな財源の確保について》

- 話の趣旨は理解できる。おおかた賛成だが、山形県は７割が森林であり、むしろ都市に住んでいる人が恩恵を受けていることを租税の検討では考慮すべき。また、山形県民だけが負担をするのではなく、国民すべてが負担すべきでないか。
- ２年前に県が公益の森構想を発表したときに、すばらしいと思った。公益で支えていくこと、県民みんなで支えていかなければならいのではないか、と思った。かつての水源税が失敗した経緯、あの頃とは県民の意識も違ってきているが、県民が森林のために税を出す、ということにどこまで理解が得られるのか。税の使い道をはっきりと説明して、なんとか成功してもらいたい。
- 国内の木材資源は需要をまかなえるほどあるので、外材輸入をとめれば森林整備が進むのではないか。また、県民に平等な負担という話があったが、大企業（輸入業者）などにもっと負担してもらうことも検討すべき。
- 税を得るための手法は分かりやすく書いてあるが、どのようなことに使うのかということが書いてない。管理放棄された森林に投入するということだが、きちんと管理しているところには投入されず、放棄したところだけを整備するということになると、個人の財産形成にも寄与していくことになるので、公平性をどう保つのかが課題。